

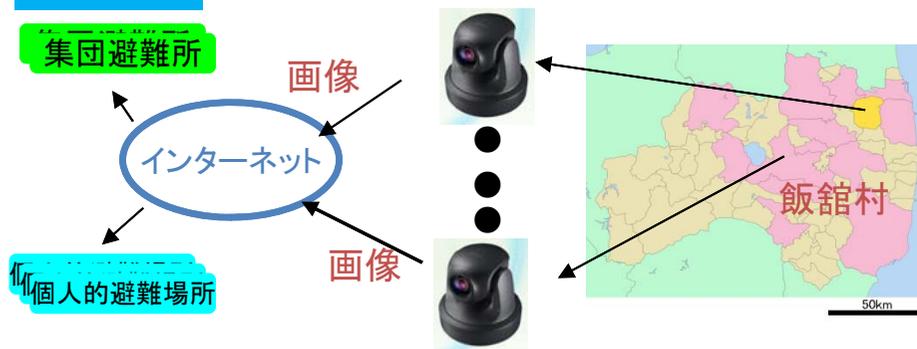
# ふるさとモニタリングシステム

～計画的避難地域である飯館村のふるさと意識維持のために～

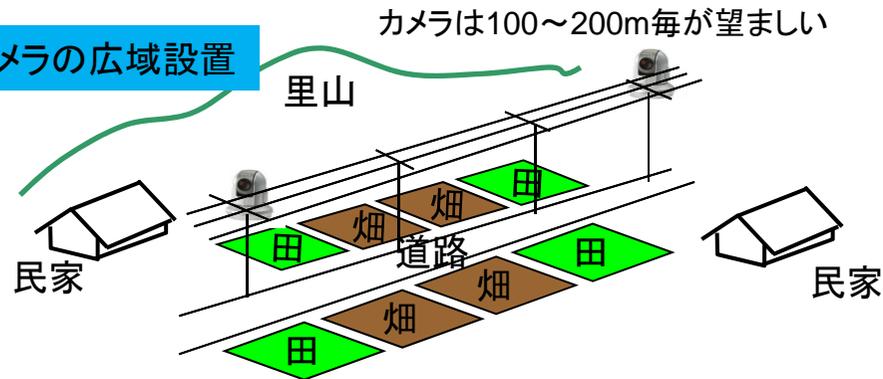
## 目的とシステム概要

計画的避難区域となった村の“ふるさと”意識を、村外へ避難した人々にもち続けていただくために、村のなるべく多くの場所にWebカメラを設置し、避難先から無人になった村の様子をいつでも、どこからでもインターネット経由で見ることができるようにする。さらに、その新しい利用法を、村の人に実際に利用していただきながら、村の人と共に創る。

## 全体構成



## カメラの広域設置



## 効果

- 村(自宅周辺)がどうなっているかをいつでも見ることができる安心感=避難場所においてもいつも村とつながっている連帯感がもてる(ふるさと意識維持)
- 村がだれかにモニタされていることを報道発表することにより、無人化する村の犯罪抑止効果が期待される(みんなの目による防犯、犯罪抑止力)
- 村に何か異常が起こった場合の備え(異常早期発見)

## 村の現状とカメラ設置

・地勢: 標高600m程度の台地上に里山が点在しており、それらの間を埋めるように田畑が広がる。この田畑の中央を村道や県道が走り、里山を背にして住宅が散在する。20行政区があり、そのうち3行政区、飯樋地区のような住宅が密集している場所もある。

・設置: 県道、村道沿いの電柱や、村の主要施設や重要スポットにWebカメラを敷設し、光回線に接続する。村は、30～40台の設置を希望している。カメラ1台で帯域を約最大4Mbps消費する。各カメラ根元には光モデムと電源コンセントが入ったボックスを設置する。給電は柱上トランスから電柱間を架線して各カメラに導く。

## ふるさとモニタリングシステムの現状

Webカメラを、5台設置済み。目下、村民の方に、利用していただいて、その印象、新たな使い方などの情報を収集中

本件は、5月3日に、大学の研究室から装置を持参し、村長以下村の方にご説明の後、11月に主要部に設置、12月1日15:30から飯館村にて利用をふまえたマスコミ発表をするものです。